

GX 実現に向けたカーボンフットプリント活用に関する研究会 設置趣旨

2025 年 2 月

経済産業省 GX グループ 環境政策課 GX 推進企画室

1. 概要

(1) 背景

- 我が国の GX 実現には、GX 製品の供給力の強化のみならず、需要の創出が肝心である。そして、需要の対象である製品の脱炭素価値を表す指標としては一般的に、製品単位の GHG 排出量の指標であるカーボンフットプリント（CFP）が用いられる。
- 2024 年 12 月に政府が示した「GX2040 ビジョン（案）」では、我が国としても CFP 及び排出削減量に着目した指標を産業政策に織り込み、官民で進めている脱炭素投資を通じた産業競争力強化を実現すべく、検討を行うことを明記している。
- 近年、諸外国においては環境政策としての観点のみならず、産業政策としての観点も織り込みながら、CFP を活用した政策が実施されており、それにより自国の製品の競争力強化に資する効果が予想される例もある。
- また、民間企業は、政府のみならず取引先や金融市場等の様々なステークホルダーから、サプライチェーン全体における排出量の見える化が求められている。そのため、企業は調達している部素材の CFP を求める動きが広がりつつある。
- 経済産業省と環境省は CFP の活用を拡大する観点から、CFP ガイドラインの公表等の取組を進めてきたが、これに加えて、諸外国の政策や各種ステークホルダーの動向に照らし、競争力強化の観点からの検討も必要である。
- その際、各業界における事業戦略及び排出削減の取組とも整合的な形で、CFP の算定や評価、及びそれによる需要創出といった複数の側面が産業競争力に影響を与えるという構造を踏まえつつ、検討を行う必要がある。

(2) 研究会の目的

- こうした状況において、本研究会では、諸外国の政府・企業等の動向や、我が国の産業界を取り巻く環境を議論しつつ、我が国製品の競争力を強化するために CFP を活用する方向性と必要な対策を、産業一般及び各業界の観点から整理する。

2. 研究会の運営

- 経済産業省の主催とし、運営の庶務は GX グループ GX 推進企画室が担当する。
- 本研究会は、率直かつ自由な意見交換を確保するため、原則として公開しない。ただし、座長が認める場合には公開する。
- 資料の取扱いについては、議事次第・委員名簿・本研究会の趣旨については原則として公開するものとする。事務局作成資料や参加者の提供資料等、議事次第・委員名簿

以外の資料については、原則として非公開とするものの、事務局および資料提出者の間で相談し、座長が扱いを決定する。

- 必要に応じて、座長の決定に基づき、通常の委員に加え、専門委員を招聘できる。

3. スケジュール（案）

- 2025 年 2 月 28 日（金） 第一回研究会
テーマ：
「CFP が我が国製品の国際競争力に与える影響」について
- 2025 年 3 月 18 日（火） 第二回研究会
テーマ：
鉄鋼業界について
化学業界について
- 2025 年 3 月 24 日（月） 第三回研究会
テーマ：
蓄電池業界について
自動車業界について
- 2025 年 4 月 第四回研究会
テーマ：
第二回、第三回で扱わない業界
- 2025 年 5 月 第五回研究会
テーマ：
データ連携について
「中間整理案」について
- 2025 年 6 月 「中間整理」公表

（以上）